

# 教育研究所だより

宮古島市立教育研究所  
指導主事 砂川 睦紀  
宮古島市平良字西里1140  
TEL 73-1104

## 運動療育を活用した (11月) 特別支援指導員派遣プログラム

11/14 下地こども園・久松中

11/15 城辺小・平良中

明けましておめでとうございます。今年も「教育研究所だより」を通して本研究所事業等のようすについて発信していきますので、どうぞ宜しくお願いします。さて、今回は11月に巡回した学校の紹介です。2日間で4校とすごくタイトな日程になってしまいました。フィードバックも時間が足りなくて、先生方には大変申し訳なかったです。

### 宮古島市立下地こども園 9:00~12:30

下地こども園では、はじめに園長先生と打合せをしました。その後、園庭での外活動を参観させて頂きました。栄先生は3才から5才児までの対象児について、担任の先生からの聞き取りを交えながら、ひとりひとり丁寧に観察していました。外遊びの後は、3才児の食事の様子も参観し、11時40分からフィードバックを行いました。担任の先生方へのフィードバックでは、無意識と意識、行動と言葉をつなげる『実況中継』支援や体の重さを感じる遊びを意識的に取り入れることなど、おすすめの支援についてのたくさんの提案がありました。しまじろうのお母さんの素晴らしさについても話されていましたが…忘れていませんでした。すみません、こども園の先生方教えて下さい。



### 宮古島市立久松中学校 13:30~16:45

久松中学校では、対象生徒の授業の様子を校長先生・教頭先生が付きっきりで案内して下さいました。栄先生は、普段の生徒の様子などを聞き取りながら5・6校時の授業を参観していました。図書室で行ったフィードバックには多くの先生方が参加され、全体で共有することができました。姿勢の保持等に関する運動面の提案の他に、「プラスの行動に注目することでマイナスの行動を減らしていく」ことなど、行動面に関するさまざまなアドバイスを頂くことができました。

### 宮古島市立城辺小学校 9:00~12:30

城辺小学校では、2、3校時に協力学級での授業の様子を参観させて頂きました。支援学級担任(久井泉先生、上地佑先生、安里あきの先生)へのフィードバックでは、対象児童1人ひとりに対する聞き取りと実際に参観した様子からの見立てと今後の提案がありました。自己刺激行動(鉛筆を噛むなど)が見られる児童への対応や覚醒レベルをあげるエクササイズの方法などについても教えて頂きました。また、特別なエクササイズでなく、階段の上り下りなど普段の生活の中で体幹を整える動きを大人側が意識することの大切さについてもお話を頂きました。



### 宮古島市立平良中学校 13:30~16:45

平良中学校では、主に1学年の対象生徒の様子を音楽や社会、英語の授業などで参観させて頂きました。授業では主に「集中力が続かない」「無力感・寝る」など課題が見られる反面、対象生徒に共通する点として「明るくポジティブ」である。所属する集団では「ムードメーカー」である。また部活動を頑張っている、掃除をしっかりできるなど、自己肯定感を高めていく起点となりそうな、たくさんの「できる」ポイントの確認もありました。フィードバックでは、学級担任や教科担任、部活動顧問などいろいろなポジションで関わっている先生方の横の連携を大切にして、生徒自身がプラスに捉えられる所を強化できるように、「できる」「わかる」を積み重ねていく支援のあり方についてのお話を頂くことができました。

平良中学校では、参観とフィードバックに夢中になってしまい、写真を撮り忘れていました。大変申し訳ありません。

以下は、先生方から頂いた事後アンケートです。10月巡回の感想も合わせてあります。↓↓

### ～事後アンケートより～

- 困り感のある児童の支援方法をわかりやすく説明していただき、さっそく実践しようと思います。
- 子供の実態に合わせてすぐ使える運動療法だった。
- 迷いながらの合同自立の方向性へ向けたアドバイスが得られた。また、小中全学年を観察して頂き、的確なフィードバックをしてもらい、管理者を含め職員の意識が高まったと思う。
  - ・自己肯定感の低い子どもたちへの対応として、学校へ来るモチベーションの工夫。
  - ・誤学習にならないよう根拠を示していく。
  - ・環境を整える中で、1番は人的環境である。
  - ・子どもの挑発に乗らず、発散の場面を作る。
  - ・教師側のリーダーシップでルールづくりをしっかりと行う。
 など役立つ情報が得られた。感謝申し上げます。
- 次回の研修機会があれば、管理者を含め、特支教育は、全職員が望ましい。
- 今、自分が、やるべき事が分かって明日から頑張ろうと思えた。
- 一人一人丁寧にフィードバックして頂いて、すごく参考になりました。こだわりを活かす事。ゆっくり動く、発散させるなどのメリハリのある動きを取り入れる事。全身運動の必要性。また、そのトレーニング方法。そして、担任が問題行動が起こらないように、子どもをよく観察して、未然に防ぐ事。ほめて、望ましい行動に導いていく事で、良い行動を身につけさせる。など、ズバリ指摘していただき、突破口が見つかった気がして明日からまた、チャレンジしてみようと、思いました。今回は、特に寝める技術を磨いていきたいと凄く思いました。ありがとうございました。
- 子ども達の実態を見てもらい、一人ずつのアドバイスを聞けてすごく良かったです。
- 今までに無かった視点に気付けたこと・プラスの言葉かけ・振り返りとフィードバックの重要性・発達の過程の理解・全身運動（外遊びなど）などが大事だと言うことを再認識させられ、日々の保育の中でゆとりがないのは想定しきれていない事が多くあると痛感しました。今回学んだことを、意識して日々の保育に活かしていきたいと思えます。
- 対応や指導方法についての知識が深まった。肩周りや背中周りのストレッチを入れてあげることを初めて知りました。
- 特性がある生徒への対応について、今までは自分たちの指導がいいのかわからなかったけど、栄先生から教えて頂いて、方向性がしっかり確認できたので良かったです。
- 担任からの話を事前に紙媒体で栄先生に渡していたら、フィードバックの時間がもっととれたかなと、、次回はそうしたいと担当として思っています。
- 一人一人の生徒に対し、その特性と支援方法の説明をいただけてとても参考になった。
- 障がいの特性に対する具体的な対応方法と支援の仕方、療育につながる運動方法等の教授があり、素晴らしい人物だと思いました。
- 今度は、支援学級在籍の生徒達に具体的な運動療育支援の実践方法を研修していただきたいです。
- 栄先生には、気になる児童一人ひとりに対する具体的な助言を頂き、これからの関わり方や指導に生かしていきたいと思えます。また、学校全体で共通理解することで、校内体制で関わっていききたいです。
- 特に低学年の児童に対しては、外遊びを中心とした体作りや体幹を鍛えることが大切であるということが分かりました。また、先生は、短い時間で、色んな面を観察し、それに対する具体的なアドバイスをして下さったので、とても勉強になりました。今回、アドバイス頂いた点は、全職員で共通理解し、今後の支援体制に生かしていきたいと思えます。お忙しい中、本当に有り難うございました。
- たくさんの指導助言をして頂き、インクルーシブ校内委員会で生徒の配慮方法、支援の仕方を共通確認し、実践しています。すぐには良くなりませんが、前よりだいぶよくなっています。
- フィードバックの内容が、直ぐに実践できる内容であり、児童の良さをたくさん見つけて頂いた。

